

しろ、今でいい思い出である。中江さんや服部さんらにコイキしてもらい一週間、朝は早くから日暮れまで練習、そしてうぶ湯で汗を流し、日に汗重が減って行くのである。その結果であろう。九月の団体予選には決勝で桜塚と大接戦を演じ、試合終了前に一点をゆるしそのまゝ勝利を挙げたのが残念でたまらなかつた。

試合に勝つたら次も勝とうと思つてファイトを燃やす。そして心に何かあるものを感ずる。それは確かにその通りで、それは何か一種の優越感、満足感かも知れない。しかし、切り切ることには出来ない。又試合に敗れ、その後のなんともいえない気持、汗臭い、暗い部屋で部会を開き、あつてもなかつた。こうでもなかつた。反省して、これからの練習などの予定を立てる。

団体アレーだけに人との和が大へん必要で、そのために苦しい合宿も皆といつしよにするのであろう。個人アレーより団結した連絡との連絡が、いつも中心で人についていくことは大変むづかしく、なまやさしいものではなからいことを知つたのは、二年生の時だつた。

先輩の練習中における忠告は、いつまでもフラスすることは確かである。この三年間、晴れた日もあり、雨の日も

又雪の日もあつた。だけれど、一度も優勝しないで二位三位といつても可い涙を流しているのであつたのが残念だ。あとから読み返すと何がなんだかわからないが要するにハンドボールをしたことによつてこれからの生活などに何らかの形でアラスマであるうと私は思う。二れから、このクラブ機関誌を通じて先輩と私達が、ハンドボールクラブを今以上にもりあげて行きたいものだ。

二年生

先輩と後輩

松村 圭造

僕がクラブに入ったのは、合宿発表表のあつた三月二十日だつた。今から考へると全くはずかしいことであるが、中学時代にインントゲッターとして、キャプテンとして活躍できたといううぬほれが、僕を大きく大胆にし、合宿発表表を知ると同時に、合宿して下宿する時は合宿中だつたので、合宿ユイトを楽しんでいた。二十三日に始めて練習した。練習を中学当時のように甘く考へていた僕にとつて、その時の激しい練習はとてつと耐えがたかつた。始めてのじかも準備体操の前の運動場五周のラニングで

行じんのびてしまつた。小さい僕にとつてあのスピードはグッシユしてると変らなかつたし、運動場五周という距離は、ちまつとしたマラソンだつた。シユートノツクの苦しかつたこと。僕は加減してもらつたから辛うじてついでに行けたが、それでもその後二三日は動けなかつた。

とにかくその時の練習を見て、又、その一部を経験して一度に自信を失つた。とてモこれから先こんな練習に耐えて行けないと思つた。そして、フランクしていて六月の始めまではほとんど練習しなかつた。しかし、近畿大会後三年生の引退した後から又練習を始めた。

僕の初試合は泉天津とだつた。この試合はとてモ印象的だが、試合の事など他の諸君が詳しく述べて、くれてゐるので、僕は主にクラブについて述べてみよう。

一年生のうちは、とにかくクラブはけむたかつた。特に田舎者の僕は、言葉使いも礼儀も知らない。始終先輩に対する態度がなつてないし注意された。又、木ワイドも僕一人が一年ですごくやりにくかつた。部会がある毎にこごとばかりを並べられる。クラブはもつと楽しいはずなのに……僕達一年生ばかりよく帰り道などで、先輩や二三年生の人をけなしたり、又ばげまし

あつたりした。これは一年の者の団結には役立たず、たけれども、二年生との間に溝ができて、クラブとしてはまアかつた。良かったと思ふことは、二人な話をした後で口づも球まつて、僕達がクラブをやつて行く時はこうしようとか、又あのようしようとか夢のような計画をしたことだ。

一九六一年二月九日、僕にとつて鬼川がけなりの大事件が起つた。元来さぼりであつた僕のような者が、この日の部会でキマアデキに選ばれた。もちろん僕には全然自信がなかつた。しかし幸運な事に、この後のクラブは非常に充実していった。鈴木や西本などのような協力もあり、キマアデキをさせられた。四月、一年生が十人ほど入つて来た。夢のようなおの計画を少しも実現させなかつた。近畿大会も終り三年生がクラブから手をひいた五月、その後からクラブは今までと相変らなかつた。去年までは、あれほどけむたかつた部室も、昼休みでも、十分の休憩時でも必ず自然と集つていた。ホール当番も毎日、一年生はよくやつてくれた。今まで冗談なんて部室でほとんど聞けなかつたのに、今では部室はまるで冗談やしやれの言う所のように、すごく明かしく、楽しく、にぎやかだ。クラブもまとまつていた。というの、一年と二年

との間にほとんども溝がなく、一年は二年に
何でも遠慮なく言えるからである。これ
は良い事か、悪い事かは言い切れない。し
かし僕は、強イクラブより楽しいクラブを
オ一とする。

今年の一年生は、僕達一年生の時以上に
先輩をけあたがる。毎年／＼という傾向
にあるのではないだろうか。毎年／＼生
意気に理屈っぽくなって来てるのではないだ
ろうか。どん／＼クラブの運営がむづかし
くなってくる。勉強時間と練習時間のバラ
ンス、先輩と我々現役との関係や練習のや
り方、時代のづれに生じてくる考えの違
い、色々と問題はたくさんあるが僕は僕な
り、色々と考えているが、ここで述べるこ
とはいかえておく。理屈っぽくなるからで
ある。

我が舞台を見て

鈴木 栄太郎



入部以来十日の四月十七日に本校で行わ
れた対生野高校戦で後半、増田さんに代つ
てキーパーに入ったのが、僕の初めての試
合経験である。見るのは小さい頃から三国
丘高校でよく見たものだが、実際自分でや
ったのは始めて。余リドキドキはしなかつ

たが、それでも現在の様にはゆかず、前半
増田さんが零点を押さえておられたのを、
後半四点を献上してしまつた。しかし自分
ではまず／＼の出来であつた。後、府下大
会は準決勝まで進み、辛うじて近畿大会出
場権を獲得。しかしその近畿大会でも高津
ハインドボール部最大の敵である。雨クに出
くわした悪条件と、林さんの負傷で、奈良
代表育英高校に無念の涙をのんだ。後にも
述べるが、その翌年の三十六年近畿大会で
も雨クであつたことや、奈良代表に苦汗
をなめさせられたことを考えて見ると、我
が校は、近畿大会に見放された、が無事に
しもあらずである。とにかく三十七年度は
いかにしてモニのジニクスを破ると共に、
三度奈良県代表と相手みえたいと願つてい
る。以後全日、団体予選とも二回戦で退敗
松倉さん、前田さん、田中さん、注吉さん
、山口さん、福田さん、松村、西本、今村
、岩瀬、黒岡、鈴木で来るべき地区大会に
備えて練習に励んだ。その結果、十一月下
旬、寝屋川高校に於て行われた地区大会で
は、寝屋川を引分け、直試合の末ハイパーで
勝つた事は、今まで一番うれしかつたこと
であつた。地区大会後、インドアシリーズ
を迎えた。これは我々一年生にとつては、
初めての経験で大いにまごついたが、特に